

状態として重要であると説明しました。フレイルの存在は、将来の転倒、日常生活動作障害、入院、死亡に関連していることが明らかになっています。

フレイルの原因となるものは、運動不足や偏った食事内容などの生活习惯、身体的因素（腰や膝などの痛み、難聴など）、心理的因素（意欲低下、うつ状態など）、環境因子（各種疾患（高血圧、糖尿病などの生活習慣病や心血管疾患など）、などが、早期にフレイルに気付くにはどうしたらよい

フレイルの判定(改訂版 J - C H S 基準)

体重減少	意図しない半年間で 2 kg以上の体重減少
筋力低下	握力低下（男<28%，女<18%）
疲労感	(ここ 2週間)わけもなく疲れたような感じがする
歩行速度	通常歩行速度< 1.0 歩／秒
身体活動	①軽い運動・体操をしていますか？ ②定期的な運動・スポーツをしていますか？ 上記のいずれも、週に1回以上していない

人生100年時代の健康管理

前回、フレイルが健康な状態から要介護の状態に至る中間段階の

状態として重要なと説明しました。フレイルには多面性があり、身体的、精神的、社会的、経済的などの複数の要因で構成される複合的な状態です。この領域の第一人者である Fried 先生は、最もわかりやすい例として、高齢者の認知機能の変化を挙げています。この領域の第一人者である Fried 先生は、最もわかりやすい例として、高齢者の認知機能の変化を挙げています。この領域の第一人者である Fried 先生は、最もわかりやすい例として、高齢者の認知機能の変化を挙げています。

フレイルには多面性があり、身体的、精神的、社会的、経済的などの複数の要因で構成される複合的な状態です。この領域の第一人者である Fried 先生は、最もわかりやすい例として、高齢者の認知機能の変化を挙げています。この領域の第一人者である Fried 先生は、最もわかりやすい例として、高齢者の認知機能の変化を挙げています。

5項目のうち、三つ以上あてはまる場合をフレイル、一つまたは二つあてはまる場合はラフレイル前段階（ラフレイル、スト）と診断されます。握力は握力計がないと測れませんので、目安としてベットポトルのキャップを開ける（握力28%以上）で判断してください。握力18%は閉めたキャップを開けるが目安です。歩行速度は青信号の間に横断歩道を渡り切れない場合が該当します。

読者の皆さんにはいかがでしょうか。ロバスцеで

次回は「要介護ヒラリイ」です。



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。

保健・福祉